

岡谷市議会 10月定例会一般質問要旨について（教育総務課分）

○秋山 良治議員

3 学校給食について

(1) 給食の内容

○宇野 香二議員

1 移住施策について

(3) 奨学金返済支援制度

○山崎 仁議員

1 児童生徒の学校生活について

(1) 子供たちのマスク着用について

(2) プールの在り方について

(3) 校庭の整備

(4) 夏休みの子供たちの宿題

○上田 澄子議員

1 子育て支援の政策について

(1) 小中学校の給食費無償化

②全国、県の無償化の現状

(3) 小中学校の教育費の保護者負担（隠れ教育費）の軽減

①保護者負担の現状

②保護者負担金の軽減策

○吉田 浩議員

1 岡谷市における男女共同参画の考え方について

(2) 小中学校教育における男女共同参画の考え方

○渡辺 太郎議員

1 市長の政治姿勢について

(3) 学校給食費と保育園副食費の無償化



## 岡谷市議会10月定例会一般質問要旨について（スポーツ振興課分）

○山崎 仁議員

1 児童生徒の学校生活について

(3) 校庭の整備



## 岡谷市議会10月定例会一般質問要旨について（川岸学園設立準備室分）

○渡辺 太郎議員

1 市長の政治姿勢について

(2) 川岸学園構想



○秋山 良治議員

### 3 学校給食について

#### (2) 給食の内容

特に成長期の子供には給食の内容も重要になると思います。給食内容の維持についてどう考えるのかお尋ねいたします。

○宮坂教育長

本市におきましては、子供たちの成長に支障がないよう、学校給食の質と量を確保し、安全で安定した給食の提供を維持することを第一に考え、食育を大切にされた給食を提供しております。現在、物価高騰等の影響により給食食材費の高騰が続いておりますが、こうした中でも、子供たちに必要な栄養と食事の量について影響しないように、昨年度及び本年度の給食食材費の値上がり分については、公費による負担を行いながら、安定した給食を維持できるよう手だてを講じているところでございます。

○秋山 良治議員

全国では児童・生徒の健康や安心・安全を考慮し、無農薬や有機の野菜を学校給食に採用する自治体も増えてきました。岡谷市でも一部地元の野菜を使うなどの工夫や、全校が自校調理といったこともあって、児童や生徒からは、出来立てで温かくておいしい給食が食べられる、そういった声も聞こえてきています。

すぐに全量が無農薬や有機に切り替えるというのは、コスト面、そのほかでもいろいろな面でちょっと難しいところがあるのかなと思いますけれども、岡谷市としてのこういった安心・安全な学校給食についてというのをどのように考えているのかお尋ねします。

○両角教育担当参事

先ほど壇上で教育長お答えしたとおりでございますが、まずは子供たちの成長に支障がないように、学校給食の質と量を確保し、徹底した衛生管理の下で安全で安定した給食を第一に考えていきたい、これが前提でございます。その中で、お話ございましたとおり、自校給食を本市は大事にしている、それから地元の産品、地産地消にも取り組んでいるというところでございます。

その中で、学校給食での有機農産物の活用につきましては、地元で有機野菜を栽培しております生産者の方から連絡等をいただく場合があります、学校ごとに量や価格などの折り合いがついた場合に活用している例があるということでございます。ただし、調達する価格が高めというようなこともありまして、全体の学校給食に対する割合としては少ない状況にあります。

学校給食における有機農産物の使用には、生産物の地域性でありますとか調達コストの問題、安定した供給量の問題など、本市に限らず導入がなかなか進まない課題があるというふうに考えております。

○秋山 良治議員

やはり急に切り替えるというのは難しいかなと思いますので、いろいろな方法を探しながら継続的に注視していただけたらと思います。

3回目の質問に入りたいと思いますけれども、2022年11月に、全国初となる食用コオロギの粉末を学校給食として徳島県立小松島西高校で約170人の学生に対して提供されたということがありました。そ

して、2023年2月には、茅野市玉川小学校2年生の生活科の授業でコオロギパウダーを使ったパンケーキを作り、試食ということもあったそうです。

こういったことを踏まえまして、岡谷市では学校給食に昆虫食、特にコオロギに関してどう考えているのかお尋ねしたいと思います。

#### ○両角教育担当参事

コオロギパウダーなどの昆虫食は、地球温暖化や世界的な人口問題に起因します食料危機に備えた次世代の食料として各国で研究などが進められております。また、昆虫という部分でいきますと、郷土食としてイナゴや蚕のさなぎの佃煮などもありますので、児童・生徒の学習活動の一環としての試食の機会といったものは排除するものではありません。

しかしながら、お話にあったように給食にということであると、昆虫食によるアレルギーや食中毒の問題など、安全性に現在、現状では不安がありますので、現時点において安全性が確認できない食材を学校給食に取り入れることは考えておりません。

#### ○秋山 良治議員

ちょっと現時点でというのが少しひっかかる場所でもありますけれども、やはりアレルギーの問題だったり、様々まだ問題というのは隠れているのかなと思っています。そういったところで、やはり選択、給食に出ればやはりなかなか選択して食べないというのは難しい状況かなと思いますので、しかもパウダーになって出てきてしまいますと、やはりどこに何が入っているかと分からなくなってしまうんですね。形でそのまま出てきたら、これ嫌だとは言えるのかなとは思いますがけれども。

そういった学校給食というのはそういう環境だと思いますので、そういったところでは、もう現在もそうですし、今後もこういったものを導入するというのはやめてもらいたいなのをちょっと強く要望しまして、こちらの質問は終わりにしたいと思います。

#### ○宇野 香二議員

##### 1 移住施策について

##### (3) 奨学金返済支援制度

奨学金支援制度についてお聞きをしていきたいと思えます。

この制度については、岡谷市は既に実施をさせていただいているというふうに聞いております。これは岡谷市で行っている奨学金制度を利用しているとか、こうした方々が岡谷市に戻ってくるという場合に、借入れ額の25%を支援するとこのようにお聞きをしているんですけれども、これでよろしいでしょうか、伺います。

#### ○両角教育担当参事

今お話しいただきましたが、岡谷市の育英基金奨学金制度に基づく貸付けの特例としまして平成13年度から創設しておりますけれども、学校卒業後、岡谷市に帰って、引き続き住んでいただいた場合には、奨学金、お貸しした額の25%を免除するという制度で運用しているところでございます。



## ○山崎 仁議員

### 1 児童生徒の学校生活について

#### (1) 子供たちのマスク着用について

#### (2) プールの在り方について

#### (3) 校庭の整備

#### (4) 夏休みの子供たちの宿題

今月、10月3日に、文部科学省が2020年度の小中学校における不登校者数が過去最多の29万9,048人になり、前年度比22.1%増加、小中、高校などで認知したいじめ件数も過去最多、68万1,948件、前年度比10.8%増加となっています。

このようなことから、本来でしたら、不登校、いじめの問題についても取り上げようと思いましたが、さきの6月の定例会、一般質問の中で、渡辺議員が詳しく質問をされていましたので、今回はその内容については控えさせていただきます。

新型コロナウイルス感染症対策により子供たちの生活や気持ちの面でも大きく変わってきており、先ほどのいじめ、不登校の数字にも表れておりますが、関係性は否定できないと思われまます。そこで、児童生徒の学校生活についての(1)子供たちのマスク着用について、質問をします。

新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後における子供たちの学校生活においては、いまだにマスクを着用している子供たちも見受けられます。マスクの着用による子供たち同士の友達関係性、コミュニケーションの現状と今後の対応についてお聞かせ願います。

続いて、(2)プールの在り方についてですが、小中学校では、学校敷地内のプールで水泳授業が行われております。これまで、毎年、当然のように行われてきた授業であります。最近では、熱中症や特に新型コロナウイルス感染症の影響により、プール授業が中止となるなど、課題は起きているのではないかと感じております。

そこで、初めに、プール授業の現状についてお聞きします。

水泳授業は必ず行われなくてはならないものなのか、また、選択制なのか。学習指導要領ではどのように位置づけられているのか、お聞かせ願います。

次に、(3)校庭の整備になります。

これは、市民の方から指摘があったのですけれども、車道の隣に校庭があり、見渡せる学校は、他の学校も同様だとは思いますが、雑草が生い茂っていて、景観的にもよくないし、滑ったり、つまずいたりして転ぶ可能性があり、危険で何とか対処できないものなのかと相談されました。

学校の校庭は、授業や休み時間にはたくさんの子供たちの姿を見ることができ、大変うれしく思います。しかしながら、先ほども述べたように、学校によっては、校庭も広く、子供たちが安全に使用するには雑草の駆除などが管理が大変であると思いますが、現状はどのように行われているのか、お聞かせ願います。

次に、(4)夏休みの子供たちの宿題になります。

子供たちの夏休みはこれまでコロナ禍による制限があったものの、今年の夏には緩和され、それぞれの家庭ではコロナ禍以前の夏休みであったかと思えます。夏休み中には、学校から子供たちへ宿題が出されて、宿題を終わらせるのに大変な思い出もあります。

そこで、子供たちの夏休み中の宿題の現状、目的について、どのように捉えているのか、お聞かせ願います。

#### ○白上教育部長

私からは、大きな1番、児童生徒の学校生活についての(1)から(3)について、お答えいたします。

初めに、(1)子供たちのマスク着用についてであります。

新型コロナウイルス感染症の分類が5月に5類へと引き下げられ、マスクの着用は基本的に個人の判断に委ねられることとなりました。学校におきましても、基本的には、国の指針に基づいた対応を行っており、2学期も終盤に差しかかる現在では、マスクを外している子も、している子も本人の自由な意思に基づいたものとなっております。しかしながら、長く続いた学校でのマスク着用の生活は子供たちの表情が見えず、声が通りにくいことに加え、人と人との距離を空けるなど、子供同士のコミュニケーション力への影響が心配されております。

こうした中、最近の学校生活の様子からは、元気に会話する子供たちの姿などが見られ、学校に活気が戻ってまいりました。一方で、冬場を迎える今後は、季節性インフルエンザや受験期等、そのときの学校生活の状況に合わせて、子供たちのマスクの着用が必要な場面もあると考えております。また、子供たちのマスクは授業中や友達とのコミュニケーションの面で障壁となることもありますので、アフターコロナ期を迎え、このようなマイナス面があることも子供たちにはしっかりと伝えていきたいと考えております。

次に、(2)プールの在り方についてであります。

学習指導要領では、体育の運動領域の一つとして、小学校1、2年生では水遊び、小学校3年生から中学校3年生までは水泳運動として位置づけられています。小学校1年生から中学校2年生までは、原則、全ての児童生徒に履修させることとされておりますが、中学校3年生につきましては、器械運動、陸上競技、水泳及びダンスのまとまりの中から1領域以上を選択して履修できる選択制が採用されております。

なお、学習指導要領では、水泳の指導については、適切な水泳場の確保が困難な場合には、プールを使用した授業は行わないことができるとされておりますが、水泳の事故防止に関する心得については、必ず取り扱うこととされております。

次に、(3)校庭の整備についてであります。

小中学校の校庭については、各校において、定期的にコンディション等の点検を行いながら、運動会などの大きな行事がある場合は、学校職員による草取り作業や児童生徒の清掃活動に合わせた石拾いなど、協力しながら環境美化に努めております。そのほか、PTAや地域のボランティアの皆さんの協力による共同作業を行っている学校もあり、各校に配置している学校業務員による日常的な草刈り作業等も行っております。

校庭は面積が広大であり、雑草等はすぐに繁茂してしまいますので、管理に苦勞している学校が多いことは実情ではありますが、児童生徒にけがのないよう、安全に配慮しながら校庭の管理を行っております。

#### ○宮坂教育長

私からは、大きな1番、児童生徒の学校生活についての(4)夏休みの子供たちの宿題についてお答え

いたします。

夏休みは、子供たちが家庭や地域に帰り、時間的な制約が少ない中で、学校ではできない自分の好きなことに没頭したり、自然に触れたり、地域の行事に参加したりといった様々な体験ができる貴重な機会であると考えております。

夏休みの宿題の目的につきましては、これまで学習してきた内容の定着、学習習慣の確立、長期間の休みであっても規則正しい生活を維持すること、さらには、1人1人の興味、関心に基づいて探求する楽しさを味わうことで、主体的に学ぶ力を育むことなどにあると考えております。そのため、各小中学校においては、いわゆる夏休み帳などの長期休業用の学習教材等を共通の宿題として出し、1学期の学習内容の定着を図ると同時に、夏休みだからこそ取り組める課題にも子供たちが主体的に取り組めるよう、自由研究や読書感想文、工作、ポスターの制作等の課題を自らの課題意識を持って自由に選択できるようにしておるところであります。

### ○山崎 仁議員

それでは、大きな1番の児童生徒の学校生活についての(1)子供たちのマスク着用について、2回目以降の質問をさせていただきたいと思っております。

小中学校生徒ではないのですけれども、保育園児の話で、マスクをしていると、本当に会話をしなくなるそうでありまして。先ほどの答弁で、マスクの着用は個人の判断に任せているが、コミュニケーション力への影響が心配されるが、元気に会話する子供たちの姿が見られ、学校に活気が戻ってきたことで、少し安心いたしました。

しかしながら、ここに来て、インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症により学級閉鎖となった学校もあると聞いております。これからの季節に対応するための対策をお聞かせ願いたいと思っております。

### ○白上教育部長

学校での集団感染を防ぐために、学級や学年に複数の感染者が確認された場合は学校の判断で学級閉鎖や学年閉鎖を講じることがありますが、これは、コロナの始まる前からあった一般的な対応となっております。

これから冬場を迎えますが、新型コロナウイルス感染症は完全に収束したわけではありませんので、地域や学校の感染状況に意を配しながら、さらに、今後は季節性インフルエンザの流行にも注意する必要があります。学校において、感染症の拡大などのおそれが生じた場合は、学校や子供たちへの影響を最小限に食い止められるよう、これまでの経験を生かして、基本的な感染防止対策等の対策を講じていく考えでございます。

### ○山崎 仁議員

基本的な予防対策、感染対策をして、最小限に食い止めていくということでありましてけれども、今朝のニュースでも、せき止め薬や鎮痛剤、その他の薬も非常に不足している状況で、いつ入荷するのか、いまだにめどが立たないということでありまして。ここ数年間、インフルエンザが流行しなかったため、予防薬や治療薬も今年はまだ不足しているとお聞きします。

そこで、より一層感染症の動向を注視し、対策、対応に努めていただくことをお願いいたします。次に移ります。

(2)プールの在り方についてになります。

先ほどの答弁で、学習指導要領について、おおむね理解はいたしました。

中学3年生に限っては、器械運動、陸上競技、水泳、ダンスの中から一つ以上の選択制を採用しているということは初めて私も聞き、驚きました。

2回目になりますが、今年度のプール授業の状況についてお聞きしたいと思います。今年度は、小中学校のプール授業は何日行われてきたのか、お聞かせ願います。

#### ○白上教育部長

今年度のプールの授業日数でございますけれども、小学校は1校当たり平均10日、中学校は1校当たり平均13日行われております。

#### ○山崎 仁議員

小学校は平均10日、中学校は13日ということで理解をいたしました。

この日数が多いか、少ないかは微妙なところでありますが、次の質問をいたします。

市民の方から、今年度より、岡谷北部中学校のプール授業について、壊れたため、学校のプールを使用せず、岡谷市民水泳プールを使用しているとお聞きしております。学校のプールは小中学校の建設当初に建てられているものが多く、建設から時間が経過しているものが多いのではないかと思います。

そこで、今年度より岡谷北部中学校において市民水泳プールを使用することとした経過をお聞かせ願いたいと思います。

#### ○白上教育部長

岡谷北部中学校のプールは、設置から50年以上が経過し、その後の改修からも30年以上が経過する中で、水槽内のシートが劣化しまして、そのままでは事故の危険性もあり、コロナ禍であった昨年度はプールの使用を取りやめまして、抜本的な改修について、内部検討を進めてまいりました。その結果、今後も学校プールを存続していくためには数千万円規模の整備が必要となり、加えて、利用が夏季の短期間に限られるため、費用対効果の面で課題がございました。そこで、今年度、改修が終わりました岡谷市民水泳プールの利用ができないか、学校に相談させていただいたという経過でございます。

学校では、プールまでの移動手段が確保できれば、市民水泳プールでの授業は可能とのことでありましたので、本年度から移動に庁用バスを利用し、市民プールの利用に切り替えさせていただいたというものでございます。

#### ○山崎 仁議員

改修してから30年以上経過する中での水槽のシートが劣化したために、これも数千万円の経費がかかるということでもありますけれども、先ほども、質問でも利用期間が短いとお聞きしましたように、費用対効果でも課題があるとのことでもあります。それはそうでしょう。年に夏の期間の10日から13日間のために数千万円かかるというのは非常にもったいなく、効率が悪いと思われれます。

これからも小中学校では、次々と大規模な修繕をしなければならないプールが出てくると見込めます。そうすると、数億円の経費がかかるわけでもあります。私の家の前にも小学校のプールがありまして、プール授業が終了した後、1か月ほどでプールサイドは腰の高さほどの雑草がたくさん揺れております。

そこで、今後の学校のプールの在り方について、どのように考えているのか、お聞きしたいと思います。

## ○白上教育部長

学校プールの老朽化への対応は、本市に限らず、全国の学校が抱えている課題と言えます。こうした中、学校プールを廃止し、市民プール等への集約を図る全国の事例が数多く見られるようになりました。また、市議会総務委員会より、学校プールの集約化に関する市への政策提言をいただいた経過もございまして、様々な関わりの中で、公共施設の今後の在り方を考えていただいております。

本市におきましても、学校プールに関しては、水泳の授業に支障がないことを前提に、費用対効果の面からも学校ごとのプールは持たず、市民プールに切り替えて集約を図っていくことは、少子、人口減少社会に対応し、公共施設の総量の適正化を図る面からも必要な選択肢ではないかというふうに考えております。

ただし、小学校については、水深の浅い低学年プールが必要となりますので、授業時の安全確保の対応が必要になってまいります。

今後の学校プールの在り方につきましては、これらの考え方を基本に置きながら、今年度策定する岡谷市魅力と活力ある学校づくり推進プランのハード整備版の中で位置づけてまいりたいというふうに考えております。

## ○山崎 仁議員

人口減少、少子化社会の中で、全国的にもやはり同じような学校がプールを廃止し、市民プールに集約する自治体が増えております。利点としましては、屋内市民プールは1年中使用でき、暑い日差しが照りつけないために、熱中症の心配もありません。したがって、プール授業が冬季に行うことも可能であります。

また、専門の監視員がおり、安心感があり、教職員や保護者への責任軽減や事故防止ともなり、指導員による水泳授業での技術向上にもつながることから、岡谷市としても、そのような方向で考えていると理解してよろしいでしょうか。確認のため、お聞かせ願いたいと思います。

## ○白上教育部長

先ほど申しましたとおり、大規模な修繕工事等見込まれるというような時期を捉えまして、そういった考え方を基本にしながら検討を進めてまいりたいというふうに考えておりますので、よろしくお願ひします。

## ○山崎 仁議員

議会からの総務委員会の政策提言でもしっかりと載せており、早出市長もそのところは把握しておると思いますけれども、議員活動でも、政策提言は、岡谷市をよりよくするため、歳出削減なども考えながら、2年間かけて視察や懇談、意見交換などを繰り返し、まとめ上げたものであります。ぜひとも、参考といいますか、実施していただきたいと思います。岡谷市魅力と活力ある学校づくり推進プランのハード面にしっかりと入れ込んでいただけるようによろしくお願ひいたします。

続きまして、(3)校庭の整備になります。運動会などの前に、学校職員が草取り、生徒が石拾い、PTAの地区やボランティア等と、あと、学校業務員の方の草刈りの整備で対応するとのことですが、管理に苦勞されているようであります。

2回目の質問になりますが、校内の環境整備については、PTA作業など、協力をいただきながら進めていると思いますが、PTAの方からは大変であるとの声もあります。

そこで、休日に、一般市民に校庭を開放すれば、市民からの校庭の環境整備にも協力を得られると考えておりますが、現状はどのようなになっているのか、お聞かせ願いたいと思います。

#### ○白上教育部長

小中学校の校庭のうち、中学校については、部活動の使用がありますので、一般開放は行っておりませんが、小学校につきましては、教育活動に支障のない範囲で市民の方への開放を行っております。土日、祝日が中心となりますが、小学生の野球チームやサッカーチームの練習、それから、地域の運動行事などで利用している事例がございます。利用するスポーツ団体の中には、シーズン初めの草取りや練習の都度、短時間ではございますけれども、子供や保護者による草取りなどの環境整備を行っている団体もございます。また、使用後は、利用者が校庭のトンボがけ等を行うことになっておりまして、利用者の協力を得ながら、整地に努めてもらっております。

なお、岡谷東部中学校は、市営陸上競技場としての位置づけがありますので、春と秋の市民陸上大会に併せ、業者による整備を年2回、実施しているところでございます。

#### ○山崎 仁議員

中学校のほうは一般市民には開放していないということでも理解いたしました。

小学校は、小学生の野球やサッカーのほか、地域の行事に貸し出しており、整備に協力していただいているとのことでありますけれども、私がいる今井区のほうも、先日、区民運動会で使用させていただきました。やはり校庭のような施設は使用しなければ整備が行き届かないと思いますが、熱中症対策など、体育の授業で校庭の使用は減っていると感じます。現状はどのようなになっているのか、お聞かせ願いたいと思います。

#### ○白上教育部長

地球温暖化の影響によりまして、近年、夏季の気温が上昇傾向にあり、特に教育現場では、暑い時期の屋外での活動による熱中症に注意する必要があります。各校においては、市教育委員会が令和3年度に策定した岡谷市小中学校熱中症対応ガイドラインや国・県の指針に基づいた対応を行っており、気象庁が発令する熱中症アラートに注意するとともに、各校に配備している暑さ指数計を見ながら、暑さ指数が危険な領域にある場合は、体育や部活動での運動を中止するなど、判断を行って対応しているところでございます。

熱中症は命に関わる場合もありますので、各校において、暑さに気をつけながら授業や部活動を行っておりますが、校庭の利用回数については特に大きな影響は生じておりません。

#### ○山崎 仁議員

熱中症ガイドラインを参考にして対応していきまして、熱中症には気をつけていますが、校庭の利用回数は、今、減っていないとの答弁で理解いたしました。ちょっと意外な結果でちょっとびっくりしておりますけれども、回数が多いことは別に悪いことではないので、いいと思います。

4回目の質問になりますが、学校の校庭には、グラウンド以外にも、遊具や鉄棒などの体育器機があります。グラウンド、各種体育器機など、子供たちの安全を守るため、適切に管理していく必要があると考えています。

今後の校庭の整備や維持、保全の考え方をお聞かせ願いたいと思います。

## ○白上教育部長

校庭や遊具、体育器具などを含む学校施設の適切な管理に向けた指針として、市教育委員会では、岡谷市学校施設の点検ガイドラインを令和3年度に作成しており、日常的な点検の実施や不具合等が確認された場合の修繕等に努めているところであります。

このガイドラインでは、学校施設全体の安全確保に関する学校長の責務の確認や日常的な安全点検の実施、故障等に応じた臨時点検の実施等の考え方を示しており、市校長会と共有しながら、安全な施設の維持に生かしております。

特に学校の遊具につきましては、年数の経過とともに金属疲労や劣化が進むため、学校と協力しながら子供たちが安全に利用できるよう定期的な点検を行い、必要な修繕等を行っていく考えでございます。

## ○山崎 仁議員

校施設の点検ガイドが令和3年に策定され、定期的な修繕を行っているとのことですが、まれにですけれども、学校の遊具でけがをされたりとか、そういう事例も見られます。安全面などを考えて、適切な施設の維持に努めていただくことをお願いしたいと思います。

次、(4)夏休みの子供たちの宿題についてになります。

宿題の目的は、規則正しい生活の維持で、主体的に学ぶ力を育むことと考え、やはり昔と同じように、夏休み帳での宿題を出したり、自由研究や読書感想文、工作、あとポスターなど、自由に選択できるように、選択制になっているようで、昔とはちょっと変わってきたのかなと感じております。

私の子供の時代は、夏休み帳が分厚く、1cmくらいあったんですけれども、夏休みの最初の頃は、早く終わらせようと頑張って、好きな科目から取りかかったのですが、皆さんも経験があると思いますが、やはり遊びや昼寝などの誘惑に負け、放置されているのが私の場合は通例でありました。夏休みというくらいですので、休み癖がついてしまいました。

当然の結果、夏休みの最終日に焦って、残りの宿題に取りかかるのですが、母親を巻き込んで、二人がかりで取り組んでも間に合うはずもなく、夜中の0時過ぎには、もう泣きながら母親に理不尽にも文句を言って、ふて寝をする始末でありました。亡き母には心より謝りたいと思います。そのために、学校が始まってもわざと夏休み帳を忘れていき、先生に家に取りに帰され、最終的に物すごく怒られた思い出もあります。

それで、何を言いたいかといいますと、夏休みの宿題については、宿題の内容や量など、どのように決めているのか、お聞かせ願いたいと思います。

## ○両角教育担当参事

夏休みの宿題の内容や量につきましては、各校で決めております。各学校において、学年や教科ごとに、1学期の学習内容の定着が図れるか、その学年にふさわしい内容であるか、量は適当なのかなどの視点から検討をし、保護者には、学期末の保護者会や学年便りなどで周知がされます。

また、各小学校では、夏休み前に子供たちが学習計画を立て、担任や教科の先生と相談する機会を設けることで、課題や見通しを持って夏休みに入ることができるようにしております。

## ○山崎 仁議員

今の答弁で理解しましたけれども、各校でおのおので量などを決定して、また、先生と生徒でいろいろ御相談なんかするなんていう、最近はそのような傾向があるみたいであります。

私の子供たちの時代、子供がいるんですけども、夏休み帳が私の頃より半分の薄さになっています、今。最近でありますと、夏休みの宿題を廃止する自治体もあると聞いております。

今後について、教育委員会としてどのように考えているのか、お聞かせ願いたいと思います。

### ○両角教育担当参事

夏休みにおきます一律の宿題を廃止した学校や自治体があることは報道等で承知をしております。これまでの宿題の在り方を見つめ直し、子供たちが主体的に取り組む学びに転換していくという、その必要性は感じておりますが、今までの宿題のやり方をなくしてしまうことで、家庭の状況によっては、子供の学びに差が生じることも考えられます。

まずは、先進事例などの成果、課題などについて、研究など、深めてまいりたいというふうに考えております。

### ○山崎 仁議員

自分の学生時代でしたら、宿題廃止の方向性に賛同しておりましたけれども、やはりある一定の一律の宿題も出し、主体的な力を育む課題を出したほうがよいと思います。

最後に、全体を通しての要望を述べます。児童生徒の学校生活については、生活環境や一般常識など、昔と違う部分は十分理解しておりますが、校庭の整備などで子供たちに草刈り鎌を使用することは危険と言われる方もいるとは思いますが、刃物は危ないもの。どうやって使用するかを教えることが必要であります。校庭等の整備において、草刈り鎌を使用して、雑草の根本から草取りをぜひともさせていただきたいと思います。自分たちのことは自分たちです。自立を形成する上でも大切だと感じます。

あと、一般市民に校庭を開放する件であります。スポーツで壮年層の県大会を岡谷市で実施する場合もあります。しかしながら、グラウンドが足りずに、近隣の市や町のグラウンドを借りているのが実情であります。小中学校の校庭も空いている日にちを分かりやすく表示できるようシステムを整えていただき、市民の皆さんが少しでも多く使用できるよう努めていただくことをお願いいたしまして、私の一般質問を終わります。

### ○上田 澄子議員

#### 1 子育て支援の政策について

##### (1)小中学校の給食費無償化

##### ②全国、県の無償化の現状

##### (3)小中学校の教育費の保護者負担（隠れ教育費）の軽減

##### ①保護者負担の現状

##### ②保護者負担金の軽減策

##### (1)小中学校の給食費無償化

##### ②全国、県の無償化の現状

全国と県内の給食費無償化の自治体数についてお聞きします。

##### (3)小中学校の教育費の保護者負担（隠れ教育費）の軽減

##### ①保護者負担の現状。



保護者負担の現状について、義務教育は無償と言われながら、小学校でも中学校でも保護者の費用負担が増加していると聞いています。小中学校でどのような保護者負担があるかお聞きします。

## ②保護者負担金の軽減策。

義務教育は無償の観点から、保護者負担金の軽減策をどのように図っているのか、お考えをお聞きします。

## ○両角教育担当参事

私からは、大きな1番、子育て支援の政策についての(1)の②と(3)についてお答えいたします。

最初に、(1)小中学校の給食費無償化の②全国、県の無償化の現状についてお答えいたします。

給食費無償化の自治体数について、本年度、国の調査等は実施されておきませんが、本年8月の報道によりますと、全国で小中学校ともに給食費を無償または本年度実施予定の自治体数は491校、小学校のみは14校、中学校のみは17校となっております。

なお、この学校数には、新型コロナウイルス感染症対応として、国の地方創生臨時交付金を活用した臨時的な措置により期間限定で実施している自治体も含まれております。

次に、県内の状況であります。本市を除く県内18市への聞き取り調査から、小中学校ともに学校給食費の無償化を図った市はありませんでした。そのほか、県内の町村については、令和4年度の状況であります。小中学校ともに無償化が7町12村、小学校のみの実施が2村となっております。

続きまして、(3)小中学校の教育費の保護者負担（隠れ教育費）の軽減の①保護者負担の現状についてお答えいたします。

児童生徒が就学するために必要な実費等の費用として保護者に負担していただいているものの主なものであります。入学時の通学かばん、制服や体操服、リコーダーや絵の具、彫刻刀等の学用品、PTA活動費や学年単位で活動するための学年費、修学旅行の積立金、校外活動の旅費や部活動の用具費、遠征費、学校給食費等があります。

次に、②保護者負担金の軽減策についてであります。日本国憲法において「義務教育は、これを無償とする」と規定されております。この無償とは、子女の保護者に対し、その子女に普通教育を受けさせるにつき、その対価を徴収しないことを定めたものであり、教育提供に対する対価とは授業料を意味するものと認められることから、無償とは授業料不徴収と意味と解するのが相当であるというのが政府の公式な見解であります。また、現在は教科書無償措置法等により、義務教育段階においては、国公立、私立を通じて教科書も無償となっております。これらを踏まえ、学校教育の実施に伴う保護者負担の軽減策としましては、経済的支援が必要な家庭に対する就学援助による支援を行っているほか、昨今の物価高騰等による学校給食食材費の値上がり分について、家庭の経済的負担を軽減できるよう支援を講じるなど、本市の実情に応じた対策を講じているところであります。

## ○上田 澄子議員

(1)小中学校の給食費無償化の②番、全国と県の無償化の現状についてです。

先ほども全国の状況をお答えいただきましたが、近年、無償化を実現する自治体が非常に増えてきていることだと思います。子育て支援や少子化対策にとって、とても重要な課題だとの認識が広まってきているからだと思います。昨年12月の時点に比べて、先ほどお答えのあった491自治体というのは、ほぼ倍増しているというようなお話も聞いております。東京23区では、既に18の区が無償化を実施

しているというようにも聞いております。全国でも、県のほうでも、実施する自治体が増えているということですので、ぜひ実施を考えていただきたいと思います。市のお考えをお聞きしたいと思います。

#### ○両角教育担当参事

全国では、今お話ございました東京23区のうちの18区や、県内では軽井沢町さんとか、地方交付税が不交付になる団体さん、比較的財政力の高いまちですね。それから、児童生徒数が少ない町村のほか、先ほどもお話しいたしました新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の拡充分を活用した臨時的な措置などによって無償化を実施している団体があります。これらの取組は、人口規模や税収を含めた財政力の違いなど、それぞれの地域の実情により判断がなされているものというふうを受け止めております。

無償化が実現できれば、子育て支援の充実を図ることができるというふうを考えておりますけれども、そのためには、実施に見合うだけの財源確保が必要でありますので、地域間の格差とならないよう、現在政府においても検討が進められているということでございますので、こうした部分も見極めながら本市としての取組を進めてまいりたいというふうを考えております。

#### ○上田 澄子議員

(3)小中学校の教育費の保護者負担の軽減、①現状についてです。

先ほどいろいろとお答えをいただきました。年間での保護者負担は学年によってももちろん違うかと思うんですけれども、決して安いものではなく、特にきょうだいがいる世帯では大変高額になり負担が大きくなっています。中でも一番高額なのは、先ほどからお話ししている教育費や給食費だとは思いますが、それ以外にも、先ほど挙げいただいた、かぼんだの、体操着だの、修学旅行のお金だの、部活でのお金など、本当に費用がかさんでいると思います。千葉工業大学准教授であります福嶋尚子さんらの調査によりますと、小学校で平均8万4,700円、1学年についてですね。中学校では14万900円にもなるというデータもあるようです。岡谷市の場合はもう少し安いとは思いますが、保護者の負担軽減が必要と考えます。よろしく願います。

次に、②保護者負担金の軽減策についてです。

岡谷市での市の行っている軽減策について、先ほど給食の食材費の値上がり分ですとか就学援助のこととかお話があったと思いますが、授業料、教科書ももちろん無償にしているということはお聞きしましたが、保護者負担金額を考えると、授業で使うものに対してそれだけお金がかかっているということになるかと思えます。ぜひ市としても何らかの負担軽減について考えていただけないかということで、再度お聞きいたします。

#### ○両角教育担当参事

教育というところでございますので、先ほどもお話し申し上げましたが、現在、現下の物価高騰等の影響を受けまして、学校給食の食材費の値上がり分につきましては、本年度も高止まりあるいはまだ値上がっているのではないかというような現在の動向でございますので、そうした負担を軽減するために、昨年度も2回補正をお願いしましてその負担を公費で行っている、その先の今年度につきましても、臨時的な支援策として公費の負担をさせていただいているという状況でございます。今後につきましても、動向を見ながら必要に応じた対応というのは必要かなというふう考えておりますし、そのほかにも、

例えば部活動とか、全国大会にというか、活動が再開してまいりました。そういう対外行事に対する行政の補助といったものも行っておりますので、そうしたものを使いながら支援等を行っていききたいというような考えでございます。

## ○吉田 浩議員

### 1岡谷市における男女共同参画の考え方について

#### (2) 小中学校教育における男女共同参画の考え方

文部科学省より、初等中等教育において、児童生徒の発達の段階に応じ、社会科、公民科、家庭科、道徳、特別活動等の関係の深い教科等を中心に、学校教育全体を通じて、人権の尊重や男女の平等、男女が共同して社会に参画することの重要性についての指導が充実されるよう、学習指導要領の大切な実施を図ると示されておりますが、岡谷市の小中学校教育における男女共同参画の考え方と児童生徒に対する取組についてお聞きいたします。

## ○宮坂教育長

私からは、大きな2番、岡谷市における男女共同参画の考え方についての(2)小中学校教育における男女共同参画の考え方についてお答えいたします。

お互いの人権を尊重し合い、性別にとらわれることなく、個性と能力を十分に発揮できる男女共同参画社会の実現は、学校教育においても大切にしておるところであります。

各学校においては、男女共同参画への関心や理解を深められるよう、市が作成しています「わたしらしくあなたらしく」という漫画を効果的に使った冊子を平成21年度から配布しておったり、岡谷市独自の男女共同参画の理解を深めるためのポスターコンクールへの参加等を通じた周知・啓発活動を大事にしております。

また、吉田議員さんもおっしゃったように、各教科の活動の中でも、社会科、家庭科、道徳、特別活動等の教科において、男女共同参画の視点に立った指導を行っております。特にキャリア教育や進路指導に際しては、子供たちの個性や多様性を尊重し、不合理な男女の区別がないように配慮しながら、子供たちが性別にとらわれることなく、主体的に進路を選択できるように意を配しながら取り組んでいるところでもあります。

## ○吉田 浩議員

児童生徒に対する取組について理解をいたしました。

次に、教職員や保護者に対する男女共同参画の取組についてはいかがでしょうか、お伺いいたします。

## ○宮坂教育長

教職員は児童生徒に最も身近な存在であり、子供たちは大人の姿や態度を見ながら育っています。男女共同参画社会の推進に関しても、教職員は指導的立場にありますので、各学校において初任者研修、また、県主催の道徳教育・人権教育に関わる教職員研修への参加等により、一番大事な人権感覚を磨くとともに、教職員の指導力向上を図っているところでもあります。また、教職員が児童生徒を呼ぶとき、男女の区別なく「何々さん」という呼び方、共通した呼称、敬称を使うことを心がけております。学校訪問等をしておりまして、かなりの部分、これが浸透しておりますし、私自身も現職の校長の頃は、卒業証書授与式等でも、呼び捨てで呼ぶのはなくて、「何々さん」と呼んで証書を渡す、そのような学校

も増えてきております。児童生徒へも同様に指導することを通して、男女共同参画での基盤となる学校環境づくりに努めておるところであります。さらに、保護者に対しては、人権教育月間での参観日等々を利用して、人権に関わる授業を公開するなどして男女共同参画に向けた意識の高揚を図っておるところであります。

## ○吉田 浩議員

それから、男女共同参画おみやプラン6の施策内容の一つに、性の多様性の理解と尊重が挙げられております。性の多様性に関しては、比較的新しい言葉であり、我々大人の社会の中でもまだまだ深く正しい理解が必要かと思えます。性の多様性とは、従来の男性か女性かの二者択一で性別を規定したり、異性愛のみが正しいかのような見方をするのではなく、多様なセクシュアリティの在り方を考えていこうという概念のことではありますが、岡谷市の小中学校における男女共同参画推進に当たり、性の多様性の理解と尊重についての考え方、これ連続になってしまいますが宮坂教育長先生に見解をお聞かせいただければと思います。よろしく申し上げます。

## ○宮坂教育長

今おっしゃるとおり、現代社会においては、性の多様性の理解と尊重については大切な視点であると考えております。小中学校の教育においても、性差の解消、いわゆるジェンダーレスやジェンダーフリーの視点につきましては、2024年度からの小学校での新しい教科書等々にも取り入れられている、そんなことを聞いております。こうした中、本年度でございますが、市内の中学校において、男女共用のセパレート水着、いわゆるジェンダーレス水着、体の線が分からないものでありますが、それを採用した中学校があり、報道もされたところでもあります。今後につきましては、子供たちの多様性を大切にする、こうした学校の取組について尊重し、それを支えていきたいな、そんなことを思っているところであります。

## ○渡辺 太郎議員

### 1 市長の政治姿勢について

#### (3) 学校給食費と保育園副食費の無償化

ぜひ実現できるように進めていただきたいと思います。そこで、市長のほうから、御説明いただきました給食の現状についてお伺いしたいと思います。

市では、これまで食材費の値上げ分の支援について行ってきていただいております、全国的に食材費、人件費、光熱費が高騰し、今後さらに上昇することも想定されております。食材費と光熱費の現状について、まず学校給食についてお聞きしたいと思います。

## ○両角教育担当参事

学校給食の食材費につきましては、昨年度からの原油高や物価高騰等の影響により、野菜や肉類、油類などの高値が続いております。ちょっとまた上がってきているかなというような状況も散見されます。今後も、国内外の経済の安定化や物価の急激な改善は見込むことは困難であろうというふうな考えでございます。現状では、食材価格高止まりのまま推移しております、今後も決して油断を許さない状況というふうな分析をしております。また、光熱費につきましては、学校施設全体の傾向としまして、こちらも原油価格の高騰の影響により、昨年度の同月との比較において、電気代は上昇がある、ガス代は

若干値下がりの傾向といった状況であります。

#### ○渡辺 太郎議員

次に、学校給食にはセンター方式と自校方式がありまして、それぞれメリット、デメリットがあります。一般的にセンター方式のほうが、費用面で、人件費、設備、調理の合理化に伴いまして経費削減が見込まれるとしておりますが、岡谷市は自校方式を長く守り続けてきております。それは継続していかれると理解してよろしいのでしょうか。

#### ○両角教育担当参事

本市の学校給食は食育を大切しており、全ての小中学校の給食室で調理を行う自校給食により給食を提供しております。また、学校給食には、成長期にある児童生徒の心身の発達を促す栄養バランスの取れた食事や正しい食事の在り方、望ましい食習慣を身につけることなど様々な目的があり、各校の栄養教諭や栄養士が、給食を通じて学ぶ食育を大切にした献立を考え提供しているところであります。そのほか、地元の農産物や旬の食材、郷土食や行事食を取り入れるなど、子供たちが給食に期待して楽しみながら喫食できるよう、今後も自校給食を大切にしていきたいというふうに考えております。

○山崎 仁議員

1 児童生徒の学校生活について

(3)校庭の整備

運動会などの前に、学校職員が草取り、生徒が石拾い、PTAの地区やボランティア等と、学校業務員の方の草刈りの整備で対応することですが、管理に苦勞されているようであります。

校内の環境整備については、PTA作業など、協力をいただきながら進めていると思いますが、PTAの方からは大変であるとの声もあります。

そこで、休日に、一般市民に校庭を開放すれば、市民からの校庭の環境整備にも協力を得られると考えておりますが、現状はどのようになっているのか、お聞かせ願いたいと思います。

○白上教育部長

小中学校の校庭のうち、中学校については、部活動の使用がありますので、一般開放は行っておりませんが、小学校につきましては、教育活動に支障のない範囲で市民の方への開放を行っております。土日、祝日が中心となりますが、小学生の野球チームやサッカーチームの練習、それから、地域の運動行事などで利用している事例がございます。利用するスポーツ団体の中には、シーズン初めの草取りや練習の都度、短時間ではございますけれども、子供や保護者による草取りなどの環境整備を行っている団体もございます。また、使用後は、利用者が校庭のトンボがけ等を行うことになっておりまして、利用者の協力を得ながら、整地に努めてもらっております。

なお、岡谷東部中学校は、市営陸上競技場としての位置づけがありますので、春と秋の市民陸上大会に併せ、業者による整備を年2回、実施しているところでございます。

**○渡辺 太郎議員****1 市長の政治姿勢について****(2) 川岸学園構想**

川岸学園構想は、川岸小学校と西部中学校による施設一体型義務教育学校の設立と、川岸、つるみね、夏明、成田の4つの保育園を集約し、幼保連携型認定こども園を校地内に併設する計画であります。基本的な4つの柱は、「未来へとつなぐ魅力とやさしさある学校施設の整備」「学校間をつなぐ小中一貫教育（義務教育学校）への移行」「幼児期からのつながりのある学び舎の創出」「地域に支えられ、地域とつながる新コミュニティ・スクールの導入」であります。初めに、この基本方針に対する市長のお考えをお伺いします。

**○早出市長**

本年2月に公表した川岸学園構想は、少子化の進展する未来を見据えた教育環境と子育て環境の両立を目指す取組であります。この構想による川岸小学校と岡谷西部中学校の義務教育学校への移行や、4つの保育園を統合し認定こども園を併設する環境づくりは、他の地域にはない新たな付加価値として、私が公約に掲げる「友育ち」のまち、あるいは子育て支援の充実に即したプロジェクトであると受け止めております。構想に掲げた4つの基本方針は、現代の地方が抱える公共施設の在り方や少子化が進展する社会を見据えた教育・保育環境の充実に挑戦していくものであり、この取組による様々な成果をほかの地域にも広げていくことで、市内全域の教育と子育て環境の底上げにつなげたいと考えております。地域の活性化にも期待しております。

**○渡辺 太郎議員**

川岸学園構想の実施に当たっては、計画を見ますと、市内全域からの入学を可能とする、通学区域の見直しについても検討するとしております。どのような理由なのか、目的をお伺いします。

**○両角教育担当参事**

小中学校への入学は、通常児童生徒が居住する地区により通学区域を指定しており、これまで通学区域を越えた小中学校への入学については、家庭の事情等に応じた学区外就学が一般的な運用となっております。通学区域に関して、川岸学園構想では、小中一貫による義務教育学校や公立の認定こども園を併設する「つながりのある学び舎」を目指す取組となりますので、学校の魅力や付加価値を高めることで、他の地域からも学園に入学したい、入学させたいと希望される家庭があれば、これまでの基準にとらわれることなく、柔軟な対応ができないかという視点により検討を位置づけたものであります。

**○渡辺 太郎議員**

岡谷市には西中のほかに3つの中学校があります。先日の川岸小学校の開校150周年記念のビデオメッセージでも、市長も述べておられました、義務教育学校や小中一貫校に関するほかの地域への導入については、川岸学園構想による成果を踏まえた上で、各学校の施設整備の機会を捉えながら施設分離型小中一貫校移行の全域的な検討を行うとしております。この目的についてもお伺いします。

### ○両角教育担当参事

構想の中で言及しておりますとおり、川岸地区以外の小中学校は物理的に離れた場所にありますので、同じ手法の学校づくりは施設整備の観点からも困難さがあります。しかしながら、9年間の切れ目ない教育を実践する小中一貫教育につきましては、小中学校が離れていても、施設分離型一貫校という方法がありますので、まずは川岸地区をパイロットモデルとして、様々な取組を実践しながらほかの地域に展開していく、そのことで地域全体の教育環境をよりよくしていくことが大切ではないかというふうに考えております。

### ○渡辺 太郎議員

次に、今後のスケジュールについてお聞きします。

今後、様々な調整を行いながら、基本計画・実施計画の制定業務、工事施工と進んで、並行して義務教育学校への移行準備を行いながら、令和8年度完成のスケジュール案が示されておりますが、変更はないのでしょうか。あわせて、現在の進捗状況をお聞かせください。

### ○両角教育担当参事

構想で示したスケジュールは、あくまでも標準的な目安ということでございます。施設整備や義務教育学校への移行のための準備には、短く見積もりましても3年から4年程度は必要というふうに考えております。順調に進めば、令和8年度中の開校が目指せるのではないかというふうに考えたものであります。このため、スケジュールにつきましては、現時点で確定しているものではありませんけれども、本年度策定を予定しております基本計画の中で、改めてスケジュールなどもお示ししていく予定でございます。

それから、現在の進捗状況であります。義務教育学校や認定こども園を併設しているほかの地域の先進地等の視察を行いながら、施設整備の内容や義務教育学校の運営計画等に関する検討を進めているところでございます。